

も致しませんでした而して夜半突如三百七十餘名を僅なる解雇手當と共に蹴首しました之では蹴首者達は退山することさへ出来な
絶體絶命の有様であります昨日の蹴首者家族大會は悉くの人が其悲惨なる状態に涙を流さぬ者はありませんでした。
常に労働者の問題は世間一般の誤解を招き易い點があります今日吾々の態度を公明にして一般の輿論に訴へ置くことの必要を痛切
に感じます故に此の事件報告書を公にして一般の同情に訴へる所以であります。

大正十年四月十四日

足尾銅山労働者運動本部

麻生氏の説くところは要するに八ヶ條要求中「接骨醫を置くの件」等の如き極めて簡易且會社が爲
さるべからざる要求もあるに不拘、會社が之に一顧だも與へず、峻拒するは不當なりと云ふにあり。
其言「ヨロケ（鑛肺）」に觸るゝや、庭前にうづくまり居たる坑夫は我も我もと其ヨロケ患者なるを述べ
たり、岡崎監督官補は之に對し種々答ふるところありたるが、鑛夫の鑛務署官吏に對するの怨淺から
ず。即ち監督官中、足尾に來れるものには、掛水俱樂部（會社經營）に一宿したるのみにて去るものあ
り。又坑内に入ると雖、會社の案内者が空氣のよきところ足場のよきところのみを案内して労働苦の
實相に觸れしめず、甚しきは監督官入坑の日は特に空氣を其一部に注入し置きて其部分を案内する等、
到れり盡せりの手段を弄するを以て今後は必ず労働者を案内者とされたしと絶り、其座より岡崎氏に
入坑を乞はんとするものゝ如かりしため、麻生、石塚兩氏之を押し止めたるが此經過報告會は相當に
官憲をして考慮せしむる材料を與へたるものゝ如し。

▽麻生氏最後の決心

十二三日には労働者の氣勢絶頂に達し、此形勢何時まで持續するやは、最早其眼者をして案せしむ
るところありたり。麻生氏の意中最も苦める頃なり。此罷工にして破れんか足尾聯合會幹部は足尾に
止まるべき顔なきため、身を以て鑛業所に當るの外なしとして、既に最後の決意を堅めたる風あり、
又麻生氏とて運動瓦解に終らんか社會的生命に致命傷を負ふは必然なりとす。尤も不穩に亘る演説は
或は實際に暴行を煽動して、治安警察法に觸れ、六ヶ月以内の刑を受けんか世間體は夫にて濟み或は
却て世俗に歡迎を受けんも、苟も労働組合の責任ある指導者として眼前に落ち行く苦める蹴首者を控
へて、かゝる無責任なる行動は斷じて爲し得べきにあらず。氏にして労働者大會に臨み「古河は頑迷
にして、我等に交渉の望を絶たしめたり。最後の日は終に來る。諸君は任意の行動を取れ」と云ひ放
たんか労働者は即夜身を以て何事かを爲したるは必定なるも、労働者の個々を思へばかゝる行動こそ
最も慎まざるべからざるところならずとせず。茲に於て麻生氏は一夜聯合會の幹部を集め最後の決心
を定めたり。此決心とは先づ蹴首者をして手當慰勞金ともに受取らしめ、未蹴首者を就業せしめ、少
數幹部の身を犠牲として労働者の怨恨に満足を與へんとする方策なりしが如し労働者の氣勢絶頂に達
せりとして新聞紙上に報導せられたる日、指導者に此哀感あり、危機は既に間一髪に迫りつゝありし